

## 「千葉県立博物館の今後の在り方（案）」に関する意見の概要と県の考え方

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
1	共感	詳細については専門家の皆様の提言を尊重することはよい。	館長については、館の事業や各種企画をリードする他にも、教育機関の長として、県施策の推進、美術の調査研究、教育普及、及び施設・職員の労務等を総合的に管理する立場であることから適材適所で配置しております。
	その他	魅力を高めるためには館を支えてきた専門職員や芸術・文化に造詣の深い専門家の方に館長職を担ってもらう方がよろしいのではないかと。	
2	その他	千葉県立中央博物館に集約することで調査研究ができるとは思えず、あくまでも予算などの県の情勢だけを見て縮小しているようにしか見えない。もっと、住民に寄り添った対応ができ、体験的な活動が多く取り入れられる博物館を目指してほしい。房総のむらや現代産業科学館のような老若男女、だれでもが楽しめる博物館を目指してほしい。	「千葉県立博物館の在り方（案）」（以下、「在り方（案）」）では、これからの県立博物館は、自然科学・人文科学の専門領域又は分野を横断した調査研究等により、千葉県の自然・歴史・産業・文化等に関する新たな知見を生み出す「知の創造」拠点として、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能の強化をまいります。そして、創造した知見が県の内外、さらには海外にも発信され、誰もが千葉県の魅力に触れ、学び親しむために、何度も足を運びたくなる博物館を目指しております。（p24を参照）
3	県立博物館の機能強化	博物館の宝は優秀な人的資源である、という視点が少し軽んじられている。 専門家集団を擁することを誇れる博物館であってほしい。	「在り方（案）」では、博物館の強みである人的資源を将来に向けて安定的に活用するために、中長期的な視点で後継者を計画的に育成することが必要であるとしております。加えて、専門領域を超えた共同研究を充実させ、博物館の調査・研究機能の向上を図ってまいります。（p17を参照）
4	県立博物館の機能集約	わずかな文化行政は実質的な縮小、廃止をなぜするのか。	「在り方（案）」では、地域史と特定テーマを扱う中央博物館大根分館、同大多喜城分館、関宿城博物館、現代産業科学館の4施設の存続や活用にあたっては、基本的に地元での利活用等を優先させて考えることが望ましいとしております。なお、中央博物館は、「知の創造拠点」、県内の博物館拠点として、機能強化をまいります。（p24を参照）
5	県立博物館の機能強化	自然誌博物館としての役割を弱め、歴史など社会学系に力を入れようとしている。 自然誌博物館としての機能を維持するよう強く望む。	「在り方（案）」において、中央博物館の機能強化について、「従来の自然科学分野の優れた部分を生かしつつ、さらに新たな人文科学分野との融合を図り、全体の価値を高めていきます。」（p20）と加筆いたします。 これからの県立博物館は、自然科学・人文科学の専門領域又は分野を横断した調査研究等により、千葉県の自然・歴史・産業・文化等に関する新たな知見を生み出す「知の創造」拠点として、調査・学術研究、博物館資料救済、文化財の保存・活用、人材育成等の機能の強化をまいります。（p21・24を参照）
6	県立博物館の機能強化	「千葉県立博物館の今後の在り方（案）」を読み、少し人文系の資料収集に傾いた印象を受けた。民俗・考古資料など自然誌的な展示が少なくなる懸念を抱く。	番号5と同じ
	審議の方法	審議には自然史系の専門家も入れて再検討してほしい。	
7	県立博物館の機能集約	廃止や市町へ移譲することなく、自然系は今後拡張されるべきである。	番号5と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
8	審議の方法	自然誌の関係者なし、専門家は歴史だけで、非公開審議での結果としてつくられたものであり、専門家や県の他部局の関係者、県民公募の代表者等を含め、あらためて県立博物館の将来構想を堂々と議論するべきである。	千葉県生涯学習審議会は、「千葉県生涯学習審議会公開実施要綱」により、原則、公開するものとされており、本件に係わる11回の審議は、全て公開で実施されています。 ただし、「千葉県生涯学習審議会公開実施要綱」では、①千葉県情報公開条例第8条第5号（審議、検討等情報）、②千葉県情報公開条例第8条第5号（事務事業情報）に該当する案件については、公開しないことができるとされており、県立博物館・美術館部会での4回の検討については、地域史と特定テーマを扱う中央博物館大利根分館、同大多喜城分館、現代産業科学館、関宿城博物館の4施設の地元となる香取市、大多喜町、市川市、野田市の事務事業情報を扱ったことから、②により非公開といたしました。 なお、部会での検討結果は、その後の生涯学習審議会において公開の下に報告しています。 さらに、広く県民の皆様からの意見をうかがうために、パブリックコメントを実施いたしました。
	県立博物館の機能強化	博物館の自然誌、生態環境部門の蓄積・実績またその専門家の存在意義は大きいことから、定年退職等での欠員専門家の補充をすべきである。 資料の一元管理は、生物標本にとって他の資料から虫や菌の感染の危険性が増す。	番号3と同じ 「在り方（案）」では、収蔵庫については、スペースを確保することに加え、様々な素材からなる博物館資料を適切に保管するために、複数の恒温恒湿機能、文化財害虫の侵入を許さない密閉機能、不活性ガスによる消化機能、高いセキュリティ機能を備える必要がある等の課題を認識しております。（p21・24を参照） 今後の機能強化・集約を進めていく中で、具体的な管理方法等について研究してまいります。
9	県立博物館の機能強化	人文、考古系の博物館の統廃合に伴う中央博の機能強化が述べられているが、自然誌研究に対する言及がほとんど全く見当たらない。 自然環境研究の拠点としての新しい県立自然誌博物館を構想するべきである。 今回の案で構想されている人文、考古系の各地の博物館を統合した県立中央博物館の機能強化は、現中央博とは別の建物としての「第2中央博物館」を建設することで実現することが望ましい。	番号5と同じ
	審議の方法	自然誌関係の委員が不在の中で作られた非常に偏った案であるように思われる。すべての分野にかかわる委員が参加する委員会を再度組織し、広く市民に公開された委員会の場で、県立博物館全体の今後について改めて検討すべきである。	番号6と同じ
10	審議の方法	「在り方(案)」においては、統合・合理化の一つの形式的な方法が示されているだけで、博物館の改善の熱意が伝わってこない。自ら評価を行い、新たな価値を創造して、それを県民に問うような記述がない。在り方(案)を作成するにあたって、調査等を実施、委員会を立ち上げているようだが、多くの情報が非公開なので、制定のプロセスが曖昧で、選定された専門家も、一方的に選任された専門家で、県民が望むような徹底した議論が行われたかどうか不明である。	番号6・8と同じ
	その他	中央博物館は、自然誌博物館に改称した方が、来館者が増えると思われる。自然と人間の営みや歴史の両方から展示、教育、研究を進めることができる自然誌博物館の発展を千葉県の博物館の基本方針にしていくことが、現代のニーズに適合し、特色も出せると思う。	今後も中央博物館は県内の博物館活動の中核として、機能の強化を図ってまいります。なお、名称については、教育機関設置条例第二十条で定められております。
11	県立博物館の機能強化	中央博物館の自然誌博物館の意義と重要性を中央博物館の在り方にしてほしい。中央博物館の自然系の縮小に反対する。	番号5と同じ
	審議の方法	今一度広く関連専門家（自然・科学・大学・自然誌博物館人）や市民を加えた委員会で今後の在り方を検討してほしい。	番号6と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
12	県立博物館の機能強化	中央博物館は「千葉県の自然誌」をテーマにした博物館であるので、「歴史系展示の強化を進めます」という提案は、間違っている。自然誌に関する生涯学習ができる社会教育施設として整備してほしい。海の分館のように、市民や子どもたちの自然誌学習を支援する博物館にしてほしい。	番号5と同じ
		常設展示が「経年劣化」しているので、更新してほしい。	
13	審議の方法	この案のままでは、自然・自然誌系が中心の中央博物館が、市民参加もなく、情報公開されることもなく準備され、いつのまにか歴史・考古中心の博物館に様変わりする可能性が高いと考えられるので、この「在り方（案）」を一旦白紙に戻して、あらためて博物館およびその運営に関する専門家や県の他部局の職員、公募県民などからなる「千葉県立博物館の今後の在り方検討委員会（仮称）」を設置して、市民参加、完全なる情報公開のもと、新しい「あり方（案）」を策定してもらいたい。	番号6・8と同じ
	県立博物館の機能強化	この「在り方（案）」は、今までの中央博物館の自然・自然誌に関わる活動の重要性と実績を無視して検討されてきたように思われる。中央博物館の自然・自然誌系の今までの研究の成果と、中央博物館を「自然誌を中心とし歴史も加えた総合博物館」として性格付けし、自然・自然誌分野を専門とする学芸員を配置してきた意義を正当に評価して、検討し直してもらいたい。現状の自然、自然誌系の施設・設備、人員配置、予算はそのまま（あるいは拡大）にして、その上で中央博物館への人文系資料・標本類の集積と学芸員等の職員の集積をはかるようにしてもらいたい。	
	その他	博物館学芸員、及び博物館長の採用については、全て公開公募により決定してもらいたい。	
14	県立博物館の機能強化	「中央博物館」の機能を明確化し、それにふさわしい名称に変更すべきである。 名称を「千葉県立自然誌博物館」とするよう提案する。	番号10と同じ
15	県立博物館の機能強化	収蔵資料の87.3%が自然資料で収蔵庫が狭隘であると同時に人文系資料の収集が不十分という事で人文系の強化が改革案になっている。自然誌博物館としての機能強化を強く希望する。	番号5と同じ
		狭隘と言われる中で人文系資料をどう入れるのか。	番号8と同じ
		自然系の資料、人員を割愛するということを言っているのか。現時点でも自然系の人員が非常に少なくなっていて危機感を持っている。	番号3と同じ
16	県立博物館の機能集約	千葉県内のすべての博物館の存続を願う。	番号4と同じ
	県立博物館の機能強化	各分野の専門家が、博物館において其々の業績を達成できるような体制を構築してもらいたい。	番号5と同じ
	審議の方法	市民が参画、尚且つその意見を正当に取り入れるような仕組みづくりをしてもらいたい。 博物館に関する活動を長年取り組んできたNGO等の意見を尊重してもら	番号6と同じ
	その他	若い世代が博物館に関心を持つようになってきている。彼らの関心を無駄にせず、大事に育ててもらいたい。	番号2と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
17	その他	県民が身近に感じ、安心して接することが出来る、開かれた博物館づくりを期待する。	番号2と同じ
		全国的には、博物館の名称は、県民が方向性をイメージしやすいものになって来ている様に思うので、千葉県立自然誌博物館を提案する。	番号10と同じ
	審議の方法	拙速にならず、広く県民の意見を聴取した上で進めてほしい。	番号6と同じ
18	共感	『「知の創造」とは、博物館資料の活用に加え、フィールドワークや実験等に基づく専門領域又は分野を横断した調査・研究等・・・』とある。この目標は賛同し、その推進を進めてもらいたいと考える。	番号5と同じ
	その他	千葉県立博物館の今後の在り方(案)には、生態園の活用に全く触れられていない。フィールドワークに基づく調査・研究を進めるためにも生態園の充実などを案に盛り込むべきである。	「在り方(案)」において、「元来、中央博物館は、県民の自然と歴史に関する知的需要に応えることを目的とし、自然誌を中心に歴史をも加えた総合博物館として設置され、房総の代表的な自然を再現し、動植物の生態を身近に観察することのできる生態園を併設しています。」(p20)と加筆し、今後の機能強化においてその利活用等の具体的な方法を研究してまいります。
19	県立博物館の機能強化	施設外で行う山・川・海のフィールドミュージアムについて、全体が縮小の方向にあるなかで、今のスタンスではその存続が危惧される。是非、県民、ボランティアと協力しながら、その充実を図る方向で「見直しや体制の整備を進め」てほしい。	「在り方(案)」では、山・川・海のフィールドミュージアムについては、地元の関係機関・市民団体との連携の下、実施地域の広がりや地域の実情に合った事業展開が進展するよう、見直しや体制の整備を進めるとしております。(p19を参照)
	県立博物館の機能集約	収蔵庫について中央博のどこに収蔵庫の拡張、機能強化を図るのか見えてこない。次の廃館の検討と併せて拡張等の現実性のある検討、記述が必要と思う。	番号8と同じ
20	県立博物館の機能強化	地域史と特定テーマを扱う博物館について廃館を基本とした検討の方向ではなく、むしろICT技術などを使った、分館と中央博との連携により、自然誌系・人文系の資料がどこでも身近に見ることができたり研究員の指導相談が受けられる体制に充実させ、全体に活性化させることにより、経営の合理化に配慮しつつ県民サービスを充実させる方向に検討を進めるべきと考える。	番号4と同じ
	審議の方法	この案では、自然誌系の展示、資料収集、人員についての内容が乏しく、案の通り人文系の「集約・充実」を行うとすれば、自然誌系の貴重な資料の収集・保存は難しくなるであろう。「在り方(案)」は、これまでの「持続的な博物館ネットワーク事業」「高まる自然誌博物館の社会的な役割」「千葉県の変革と創造の場づくり」等の長年の実績を軽視するものであり、県民の理解は得られない。	番号5と同じ
21	県立博物館の機能強化	このような大きな政策の転換を行うのであれば、自然誌系の多くの関連専門家を加えた検討会での再検討を求める。	番号6と同じ
	県立博物館の機能強化	中央博物館について、「動物・植物・菌類・地学の標本など」989386点の収蔵資料があり、生態園を持つ自然誌としての博物館の特色を十分に生かす方向性がまったく出されていない。再度これらの点を真剣に検討し「あり方」を見直すべきである。	番号5と同じ
	県立博物館の機能集約	「人文系資料の全県的視点での資料の調査・収集は十分でない」なら具体的にどのような領域・視点で拡充するのかははっきり出すべきである。必要性は十分理解できるが、それをもって中央博物館に集約できるのか、物理的に今でも大変な場所にいれるとなるとより拡充すべき自然誌の領域が圧迫されてしまうのではないか。	番号8と同じ
	県立博物館の機能集約	香取市にある博物館は廃止の方向と言うが、香取市九美上の佐倉牧の野馬土手・捕込は国の文化財に指定されてもおかしくない遺構である。郷土愛をというならこれらの遺構をより研究・保全・活用するために博物館を活用すべきである。千葉県の3牧(小金・佐倉・嶺岡)の文化的意義と重要性を研究・保全・活用して博物館のポテンシャルを推進すべきである。以上のこと、中央博物館の設置の由来、千葉県生物多様性戦略から市民の参加を持って再度「千葉県立博物館の今後の在り方(案)」を見直すべきである。	番号4と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
22	県立博物館の機能強化	<p>自然誌博物館の目標は全県域の自然誌を俯瞰し、世界に成果を発信し、科学的知見の蓄積により県土と県民の安全を守り、もって県民の魅力、誇りとする。中央博物館の機能集約と強化は、県内に不足する自然科学系学術研究、資料収集に特化させる。人文科学系は佐倉にある国立機関、それと連携・補完する県内各地の館のネットワークで担う。</p> <p>常設展示を充実する。</p>	番号5と同じ
		<p>文科省指定研究機関の要件を満たす人員と予算規模の維持・確保研究員退職にともなう後任人事を進める。館長人事の透明化により、館の機能、役割、展示の充実、恒常的外部監査を実施する。</p>	番号3と同じ
23	県立博物館の機能強化	<p>今、地球規模で、気候変動や疫病の災禍に見舞われているとき、自然誌についての知識はこれまで以上に必要とされると思う。この千葉県にもかつて沢山の生物や植物があったことを思い出し、またその保全や今よりも豊かな自然環境の向上をめざすためには博物館の役割は大きい。人文分野の知識だけでは解決しない。博物館を持続可能な地球を作る発信地にしてほしい。生物の歴史を俯瞰できるようなスペースにしてほし</p>	番号5と同じ
24	県立博物館の機能強化	<p>「県立中央博物館」は、自然資料が収蔵資料の8割を超えるとも言われ、自然科学系博物館として、立派に活躍している。今回の「千葉県立博物館の今後の在り方（案）」では、人文科学系を増やそうということのようだが、二兎を追う者は一兎も得ずで、せっかくここまで育った自然科学系博物館としての「県立中央博物館」の『良さ』が死んでしまう。</p>	番号5と同じ
	審議の方法	<p>市民が利用する、こうした施設の「在り方」を検討する場合は、本来は、じっくりと時間を掛けて、講演会、シンポジウムなどを、度々、県内各地で開催し、広く、意見を聴きながら進めていくべきだと思う。</p>	番号6と同じ
25	県立博物館の機能強化	<p>自然科学に無知な私にも、自然あつての人間、人間も自然の一員であるということは分かる。名実ともに万全の研究活動の支援体制を組み、その成果を活用して、日本一の、いや世界の手本となることを何よりも期待している。</p>	番号5と同じ
26	県立博物館の機能集約	<p>今朝の新聞で隕石を発見した習志野市民がまず県立中央博物館に届けたことを知って、県民と博物館がつながっていると思った。このような気持ちの中で「千葉県立博物館の今後の在り方（案）」を期待をもって拝読したが、これは、明るい将来展望を感じさせるものではなく、益々千葉県の文化レベルを低下させる計画であると思った。多分多くの方々の知恵の結果によって考えられたものと思うが、どうか考えなおされまして、県内の博物館施設と活動を一層充実させる案を示してほしい。</p>	番号4と同じ
27	審議の方法	<p>県立博物館の今後のあり方について現状と課題、強化すべき機能を読んだが、あまりに飾った言葉ばかりで具体的な対策になっていないと思う。博物館、美術館は地域にとって、歴史と文化を教えてくれる重要な知の財産、遺産の集合体である。よって、安易に方向を切り替えるのではなく、より原点に戻り、焦点を絞り、時代に合った具体的なわかりやすい議論を経たうえで方策を決定すべきものだと思う。しっかりと公開しながら考える必要があると思う。</p>	番号6と同じ
28	県立博物館の機能強化	<p>人文科学系だけでなく自然科学系についても、調査・学術研究の機能を一層高めていく必要がある、と明記するよう要望する。今後も引き続き、県立中央博物館と連携・協力しながら、本県の自然誌に関する調査・学術研究と、教育・普及の活動を実施していくために、県立中央博物館における自然科学系の調査・学術研究機能が一層強化されることを切に願っている。</p>	番号5と同じ
29	県立博物館の機能強化	<p>自然史系の縮小に強く反対する。生態園を始めとした各種展示・収蔵品が充実している県立博物館は、また千葉県民にとって掛け替えのない自然科学系の知の殿堂であると認識している。収蔵庫等の増設や情報発信・イベントの開催の増加こそ望ましく、そういったところに税金を投入しても、批判されることはないと思う。</p>	番号5と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
30	県立博物館の機能強化	子供の利用者を増やすには、生きものの標本のリニューアルや標本の増量をした方がいいと思う。収蔵庫にも何回か行ったことがあり、沢山の標本が綺麗に保管されているのを見た。古く劣化したものは、新しいものに取り換えてほしい。	番号12と同じ
	その他	博物館の学芸員の楽しい話を聞いて将来学芸員になろうと思った。学芸員の人たちの利用者に対する接し方で僕は、生きものに対する熱意がわいた。人に説明して驚いて貰える嬉しさがわかった。これからも、生きものや歴史、文化を教えてほしい。	番号2と同じ
31	県立博物館の機能強化	調査・学術研究は「専門職員の集約化による人文科学系の学術研究」とあるが、博物館の規模があまり変わらず、人文科学系を大幅に強化をするという事であれば、必然的に自然科学分野の縮小という事を意味しているのだと思う。是非、自然科学系の学術研究も切り捨てる事なく、継続して支援してもらいたいと思う。 また展示等には『「いつでも新しく楽しく学べる展示」、「県内外へのわかりやすく魅力的な展示と発信。」とあるが、学問の深さを軽んじた中身の無い博物館になってしまわないか心配である。博物館らしい何度も見たくなる中身の濃い展示を期待する。	番号5と同じ
32	県立博物館の機能強化	歴史は過去のものである。掘り出されたもの、残されたものから歴史を紐解く研究がなされている。それは時間をかけて形になり文字になり本になり残される。自然は、現在進行形である。今だからこそ、やらなければならないことがあるのではないか。歴史文化だけでなく、千葉の山・自然を大切に考えた取り組みを若い研究者を育てながら進めていくことが、これからの博物館に求められることではないか。	番号3と同じ
	県立博物館の機能集約	博物館の分館や施設を県から離し、民間や市町村に移譲しても県よりも予算の厳しいなかで益々手が回らないことは明らかである。	番号4と同じ
	審議の方法	自然・地質学・民族学など幅広い分野の専門家の意見を聞いて、現状や課題を問題提起する必要もあると思う。	番号6と同じ
33	県立博物館の機能集約	今後の在り方（案）」では、分館の廃止を含む提案がなされているが、むしろ下総、上総地域の自然誌、歴史・民俗の研究の拠点として強化を図るべきである。 大利根分館、大多喜城分館については、地域の自然誌、歴史・民俗の資料収集と研究・教育の視点から再検討すべきである。大利根分館は、水郷地帯の自然誌、歴史・民俗の研究・教育拠点とすべく、香取市の水生植物園と一体となった来訪者戦略を検討すべきである。大多喜城分館については、大多喜町の観光拠点としてのみではなく、上総地域全体の自然誌、歴史・民俗の資料収集と研究・教育拠点とすべく、いすみ鉄道沿線の来訪者戦略を検討すべきである。	番号4と同じ
	県立博物館の機能強化	千葉県立中央博物館については、生物多様性基本法に基づく、生物多様性地域戦略の拠点としての位置付けを行い、千葉県の生態系、生物種、栽培種を含む遺伝的多様性の研究拠点として機能できるよう、退職職員の補充と研究職員の充実を図るべきである。	番号5と同じ
34	県立博物館の機能集約	中央博物館への機能集約と強化にある、①調査・学術研究の「専門職員の集約化による人文科学系の学術研究」に関して、風土・歴史研究などは分散していた方が研究の深化ができると思う。	番号4と同じ
	県立博物館の機能強化	「人文科学系の専門職員や博物館資料を集約し、学術研究機能を中心に資料の収集・保管、展示機能の強化を図る必要があります」とあるが、昨今の千葉県の置かれた状況を考えると台風倒木被害、地震の発生、チバニアン認定と自然科学に関連したものが多いため、むしろ自然科学を強化した方がよい。	番号5と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
35	県立博物館の機能強化	チバニアンが発見もあり、また、貴重な貝塚などもある千葉県で自然誌や生態環境部門の縮小をされないよう要望する。	番号5と同じ
36	県立博物館の機能強化	千葉県立博物館の今後の在り方（案）では、廃止または市町へ移譲される館の資料と人員を中央博物館に集約させるという方向のようである。現状のままでは収蔵庫や研究員の執務室が不足することが予想される。上記案には具体的な施設の新設や増設には言及されていない。今回の（案）では、この自然誌系の、人員・施設・標本・資料などの財産が維持できるのか大いに懸念している。	番号8と同じ
		現在の財政の中で博物館縮小はある程度やむをえないと思うが、全国的にも類を見ない自然誌系博物館として中央博の形態を維持していただくことを強く希望する。	番号5と同じ
37	その他	全体計画の企画立案や運用を専門に行う統括ディレクターを配置するのはどうか。展示におけるICTの活用、多言語対応やユニバーサルデザインへの対応などはどうか。学習キットの貸出しや学校教育支援を発展させて移動博物館を行うことはどうか。レストランやミュージアムショップの魅力向上のため、民間企業や地元有名レストランなどとの連携はどうか。県民の専門的な調査、県民同士・県民と学芸員による共同研究のためのLABOや研究設備の設置はどうか。	「在り方（案）」では、これからの県立博物館の役割として、県民の幅広い学びの要望に対応する必要があるとしており（p20を参照）、今後の県立博物館の機能強化の検討中で様々な取組について研究してまいります。
	県立博物館の機能強化	収蔵計画に関する記述がないが、今後、検討する予定はあるのか。	番号8と同じ
38	県立博物館の機能強化	千葉県中央博物館が自然誌博物館として重要だとの意見がある。その将来像が薄っぺらな総合博物館となり、自然誌や生態環境部門が弱体化するのではないかと危惧する。	番号5と同じ
39	県立博物館の機能強化	博物館は県民の財産。そして千葉の山も県民の財産である。みながその財産を楽しむためには、「自然に詳しい研究者」の配置が望まれる。	番号3と同じ
40	審議の方法	自然誌の専門家を含む多様な博物館関係者による公開での議論・審議を展開し、その上で県立博物館の新たな将来構想を策定していくべきである。審議会のメンバーは、博物館の専門家は歴史・人文分野だけであり、博物館の将来を議論するには内輪の片寄ったメンバーかつ密室でつくりあげられている。	番号6・8と同じ
	正確な情報提供	平成30年3月の「生涯学習審議会」への諮問の際の「参考：各館の設置目的」が示されたが、中央博物館は「設置目的」ではない文章が書き込まれた。	平成30年3月の生涯学習審議会における「参考：各館の設置目的」の文章は、平成16年度に県立博物館各館が定めた「千葉県立博物館の使命」に基づいて記述しております。
	県立博物館の機能強化	県内の博物館の専門分野のバランスを無視し、文化財関係の人文分野のための「在り方案」になっている。	番号5と同じ
		収蔵資料の一元管理は、生物標本にとって他の資料からの虫や菌の感染を増やす。	番号8と同じ
その他	問題を改善し、千葉県立の「“博物館ネットワーク”の方針転換（p.2）」により、県立博物館を3本柱で運営していくのであれば、資料の収蔵と活用及び専門性の充実、県民の利用促進と魅力の向上のため、「県立美術館」、「県立自然誌博物館」、「県立房総のむら・考古民俗博物館」の体制のもと、データの一元管理に基づく資料の保存・活用の充実を図り、人文系資料の収蔵については、歴史民俗資料は「房総のむら」、美術品は「美術館」、考古資料は「文化財センター」、そして歴史古文書は「文書館」へと、それぞれに応じた収蔵管理を進めるべきである。	各施設はその設置目的に基づいて資料を収集・保管しております。「在り方（案）」では、博物館が古文書、古地図、図書館では文献、郷土誌、文書館では県史編さんで収集した歴史資料をそれぞれ保管しており、資料の一元化した管理体制や情報共有によるサービスの向上を進めるとしてまいります。（p17を参照）	

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
41	その他	名称の提案 「自然科学博物館」。千葉県でも大地震、津波、昨年の風水害と大自然の猛威に襲われ、今後も同様な災害の可能性も高くなっている。博物館の使命を、千葉県の環境から環境変動の提示、地球環境の維持と自然災害から身を守ることの大切さを伝える博物館として提案したい。	番号10と同じ
42	県立博物館の機能強化	千葉県の博物館を中央博物館に統合して人文科学系を強化することだが、これによって自然分野が減ってしまうようなことにならないか。人文科学系を増やすということで、全体量は変えずに人文系の割合を増やして自然分野を減らすのであれば、人文系を強化することに反対である。	番号19と同じ
	その他	中央博物館には生態園もあるが、それはどのようなになるか。	番号18と同じ
43	その他	本館の隣にある生態園のことが一言も出ていないのはなぜか。重要な生態園についても言及してもらいたい。	番号18と同じ
44	県立博物館の機能強化	人文科学系の強化を図る意図がわからない。人文科学系は、地域の資料館等にも良い資料や人材が揃っているが、自然科学系の博物館は少なく、総合的に資料を集めることが必要なため、大きな博物館で自然科学系の研究や資料収集を中心的に担って行くべきである。	番号5と同じ
	その他	野外施設である生態園についても考えるべきである。	番号18と同じ
45	県立博物館の機能強化	もっと生き物の展示を増やして欲しいくらいなので、自然科学と人文科学のバランスは今のままでいいと思う。	番号5と同じ
	県立博物館の機能強化	展示の中身は少し更新してほしい。映像が古い。 ミュージアムショップとレストレンは、改善されることを期待している。	番号12と同じ
	その他	今回の案には生態園のことが書いていないが、今のまま残るのか。	番号18と同じ
46	審議の方法	人口減少と経済の停滞が今後も予想される現在において、県立博物館の在り方を検討することは、時宜を得たものであり、(案)全体の趣旨については大いに賛同するところであるが、本案の作成経緯において、千葉県生涯学習審議会による二回の答申は、実質上の密室審議として行われ、特に第二回においては博物館の総合性を考慮したとは見えない委員構成のもとで答申が作成され、本案もその延長として作成されたことは、誠に遺憾である。	番号6と同じ
	共感	一般的な社会状況において、妥当な整理統合を進めるべきことは、議論の余地がないものと理解する。	
	県立博物館の機能強化	人員の再配置、特に多くを占める人文系の再編成や標本/資料の中央移転について具体的な方策を提示しなければならないことは理解できるが、現在の中央博物館の機能を著しく損なうものであってはならない。「人文科学系」の視点に著しく偏っている。	番号5と同じ
	その他	本案では中央博物館の本館に隣接する野外展示施設である生態園に関して一言も触れられていないことは、遺憾である。	番号18と同じ
47	県立博物館の機能強化	自然誌博物館としての「機能強化」の方に益々ちからをいれてもらいたい。	番号5と同じ
	県立博物館の機能集約	その土地にある博物館を大切にしてほしい。大多喜分館、関宿城博物館、房総のむらは、その土地にその景色の中に展示されるからこそそのリアルさがあり、想像のつばさも広がる。	番号4と同じ
	その他	キットや映像の貸し出しなど、アウトリーチのつながりで、博物館に足を運ぶ人が増えると思う。	「在り方(案)」では、県立博物館が所蔵するコレクションを、市町村立施設に貸し出して公開する、また巡回展示を行うなど、更なる活用を推進するとしております。(p19を参照)

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
48	県立博物館の機能強化	今後の方向性として、調査・学術研究における「人文学系の学術研究」の強化や展示等における人文科学系分野の充実など、人文科学系の強化・充実が強調されているが、それによって自然科学系の予算が縮小され、自然科学系の調査・学術研究の縮小、職員削減や展示スペースの縮小等に繋がることがないように求める。 これまでの人間と自然環境との関わりを見直して行くためには、自然科学系だけでなく人文科学系の研究も必要であり、両分野共に強化し、知識の向上・蓄積を図り、博物館関係の全体の予算をもっと増やしてもらいたい。	番号5と同じ
49	県立博物館の機能強化	千葉県事情はあると思うが、科学立国でしか生きられない日本の運命を託していく必要な専門的教育、研究施設として、現状以上に中央博物館もしくは自然誌博物館のさらなる充実を希望します。	番号5と同じ
50	県立博物館の機能強化	中央博物館の活動の中核であった自然科学部門の今後のあり方がまったく欠如している。自然誌の研究、記録、公開、教育普及に関しては、ますます重要になることはあっても、他の施策を優先させることはあり得ない。自然科学を専門とする有識者を検討会に加え、より具体的な施策を盛り込むべきであると思う。	番号5と同じ
51	県立博物館の機能強化	地域の博物館の機能を集約するとのことだが、展示室等は大きさがなどが変わらないのであればそれぞれの分野が少しずつしか扱えず浅い内容の展示になってしまうのではないかと。	番号5と同じ
52	その他	調査研究に関し、文部省の科研費を頼りにしているようであるが、調査研究に関し、県行政からの支援強化を考える必要がある。	番号5と同じ
	県立博物館の機能強化	千葉県でも、台風や、河川氾濫、地震など災害が多くなってきたので、防災部門を新設し、博物館も行政に大きく役割を担ってもらうよことはどうか。	「在り方（案）」では、専門職員の集約化によって、専門領域を超えた広域的なテーマに関する共同研究を進めることができるとしており（p23を参照）、今後、このような調査・研究の成果が防災等において、どのような役割を担うことができるのか研究してまいります。
		生態園をどのようにするか検討されていない。県立中央図書館の建設に合わせて、周辺施設である生態園の活性化を図るべきと思う。	番号18と同じ
		新設される県立中央図書館との連携が論じられていない。博物館の図書、喫茶等は一元して管理するようにしてはどうか。	「在り方（案）」では、文化庁や国立博物館において、博物館・図書館・文書館等の連携の強化の検討が求められているとしております。どのような連携ができるのか、又は望ましいかなど、今後、研究してまいります。（p17を参照）
53	県立博物館の機能集約	リストラを進めたい人文科学系の分館について、自然科学的内容も含めた横断的な展示・研究を充実させ存続させることを検討したのか。分館を市町に移した場合、分館の収蔵資料も付随し移籍するものと捉えられるが、県の学芸員は県の管理下のものだった資料を外部の利用者として利用することになるのではないかと。	番号4と同じ
	県立博物館の機能強化	専門家の学芸員を十分用意していると言えるのか。十分な学術議論ができる程度の人数が各分野に配置する必要があるはずである。	番号3と同じ
		中央博物館への機能集約と強化について自然科学系の調査・学術研究はしないと宣言されているも同然であり、強く是正を求める。自然科学系の調査・研究の一層の拡充を明記する必要がある。	番号5と同じ
その他	フィールドワークや実験等に基づく調査・研究等が重要なことが書かれているが、体験型施設である生態園について、何も言及がない。	番号8と同じ	

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
54	県立博物館の機能強化	千葉県立博物館には、是非、自然科学系を重視してほしい。自然誌または自然史系を重視した博物館として運営してもらいたい。身近な自然について関心を深め、理解の一助を担う自然史系の博物館としての役割は重要なものであり、千葉県立博物館には自然誌系を強化して欲しい。	番号5と同じ
55	県立博物館の機能強化	現在の中央博物館における自然誌部門が今後も維持され、いっそう拡充されることを望む。 博物館として、今後はもっと環境問題に関わってもらい、博物館には後押しする機能が求められているはずである。	番号5と同じ
	審議の方法	今回のあり方についての検討会議が人文系の専門家だけで話し合わせ、会議が非公開のうちに行われたことは大変残念であり、県民に直接関わる重要な問題は、広く公開の場で議論するべきである。	番号6・8と同じ
56	県立博物館の機能強化	千葉県の多様な自然への理解を深めるため、博物館ネットワークを組み替え、人文科学系と自然科学系の部門をバランス良く発展させてほしい。自然科学系に関しては、千葉県県内各地の興味深い自然誌系スポットを中央博物館を中心にして有機的に結びつけてほしい。	番号5と同じ
57	審議の方法	本案は千葉県生涯学習審議会からの答申を受け、策定しているが、博物館の今後の在り方を検討する審議会に、自然科学系の委員が不在なのか。	番号6と同じ
	正確な情報情報	表11は列記する対象が混在しており、比較するに値せず、「企画展示が魅力的なら入場者数が増加すること」を示そうとしているのなら、千葉県立博物館の今後の在り方（案）」で提示する資料としては、極めて不誠実であり、悪意さえ感じる。	表11は、県立博物館における調査・研究の成果の公開の現状を特別展・企画展の開催状況によって示したものです。
	県立博物館の機能強化	中央博物館に人文科学系の専門職員の集約化することで、学術研究機能が高まるという理由が分からず、人文科学系の専門職員の集約化すると、従来の自然科学系の専門職員の収容力は減少し、自然科学系の研究力が低下するのではないか。	番号5と同じ
58	県立博物館の機能強化	改革案の中で最も気になったのは、中央博物館への集約を進め、人文系を強化するという点である。中央博物館は自然誌博物館であることが大きな特徴であり、人文・民俗は自然誌の上に成り立っていることを示してきたのが中央博である。地元根ざした自然誌博物館としての特徴を強化し、名称を変更しても良いくらいの特色ある博物館にすべきと考える。	番号5と同じ
59	県立博物館の機能集約	地域に分布する館の廃止や他の自治体への移管などが検討されている。一カ所に集約しては県内各地に住む市民が気軽にアクセスすることは困難であり、千葉県立博物館の利点が失われてしまう。他に移管しての運営により、資料の保存面に不安が生じ、研究や教育での幅広い活動が難しくなるのではないか。今後も千葉県立博物館の多くの館が知の共有点として活用され続けることを望む。	番号4と同じ
60	共感	千葉県の博物館ネットワークを先端的な取り組みとして、その評価が十分になされず、過去に行った基礎自治体への委譲を進めることの延長でしかない計画に見えた。いたずらに、県の財政的、人的負担の軽減を押し進めるための手段としてほしくない。 中央博物館を総合博物館とすることは、これまでの自然史系のイメージが強かった同館の活動が変化させるものであり、学際的な研究、展示などに期待するところである。人文系に関する学芸員や予算も、集約するからには十分に担保してほしい。	番号5と同じ

番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方
61	県立博物館の機能強化	現在の収蔵資料の「中・長期的な資料収集計画方針」を策定し、資料の維持管理のための予算・人材を確保すべきであるが、具体的なスペースの確保や狭隘化の解消のための方針がない。	番号8と同じ
		「人的資源」の確保や維持活用についてより具体的に議論するべきである。	番号3と同じ
		展示の更新がなぜ行われていないのか、具体的に記載すべきであり、なぜ「人文科学系の充実」のみなのか分からない。自然科学系の常設も充実させ、リニューアルするべきである。	番号12と同じ
	県立博物館の機能集約	「地域博物館」を県が手放すことで、これまで地域に根ざした活動を続けてきた各博物館とその地域住民との接点がなくなることで、県民の「博物館」離れを加速させてしまう懸念がある。	番号4と同じ
62	県立博物館の機能強化	人文科学系の展示・研究ばかりが強調され、自然誌系博物館としての中央博の良さが失われてしまうのではと危惧している。「自然誌系博物館」としての役割強化を、強く要望する。	番号5と同じ
63	県立博物館の機能強化	中央博物館は環境保全や、人間社会の変化成長や進化が深く自然環境と関わりながら営々と営まれてきた視点で新しい、未来につながる視点で提示してほしい。人類の生存に向けて私たちの行動が、変化するような展示をお願いしたい。	番号5と同じ
64	県立博物館の機能集約	公共施設としての博物館は社会教育施設でもあり、統合・合理化は全くなじまない。子どもや、若者にとって身近な博物館であるよう、県民参加の運営にとりこんでほしい。	番号4と同じ
65	県立博物館の機能強化	今回の機能集約の考え方は、専門家が地方に合ったキュレーションを行う自由度を狭め、「千葉県立博物館は、千葉県の自然や歴史・文化を守り、伝え、新たな知見を創造し、情報を発信します。この活動をとおして人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します」というステートメントと逆行している。	番号5と同じ
		発見・採集・保護された資料の保存管理を行うための空間的余裕を失い、「収蔵スペースの有効活用」という目的には反している。	番号8と同じ
66	県立博物館の機能強化	千葉県立博物館の今後の研究、資料、職員に関して、本来の使命である自然科学系の充実ではなく、人文科学系に重きが置かれていることが疑問である。	番号5と同じ
67	県立博物館の機能強化	千葉県立中央博物館の「生態園」、「山のフィールドミュージアム」のリニューアル含め、これらの機能の充実を再検討してもらいたい。	番号19と同じ
		自然誌を中軸に据えた博物館であることを再確認してもらいたい。博物館の名称を中央博物館から自然史博物館に変更することを検討してもらいたい。	番号5と同じ
		中央博物館と生物多様性センターの連動は重要であり、拡充も含めた積極的な提言が望まれる。	番号52と同じ
		博物館の機能として情報の集約と発信の必要性が高まっており、長期を見通し、考え、提案できる機能と人材の確保について検討してもらいたい。	番号3と同じ
番号	意見区分	意見の概要	意見に対する県の考え方

68	県立博物館の機能強化	人文社会学系に関する記述はあるが、自然科学系の分野はどのように扱われているのかが不明確。	番号5と同じ
	審議の方法	現在の決して多くないスタッフ数で、常設展示を更新し続けるよりも、専門の人員を増やし、研究部門は研究に専念して成果をあげるようにする方が文化施設としての役割を果たせると思われる。	番号3と同じ
	その他	利用者数を評価軸に上げているが、これは文化事業にはなじまらず、効率化や集約化の議論はより慎重にすべきであり、透明な議論を広く有識者の意見と、市民、そして博物館当事者であるスタッフの意見を踏まえて行われる必要がある。	番号6・8と同じ
69	審議の方法	指定者管理制度の導入が議論されているが、これまでどの程度成功しているのか洗い出しをしてから議論すべきである。	「在り方（案）」では、地域史と特定テーマを扱う中央博物館大和分館、同大多喜城分館、関宿城博物館、現代産業科学館の4施設については、県による指定管理者制度の導入によるのではなく、存続や活用にあたっては、基本的に地元での利活用等を優先させることが望ましいとしております。（p24を参照）
	その他	生物文化多様性保全などに関わる県民及び県内で活動する人々、県内外の有識者などの多様な主体への説明と意見交換の場を設定することを強く求める。時間をかけて多様なステークホルダーで話し合うことを求める。	
70	県立博物館の機能強化	概要の「中央博物館への機能集約と強化」の「①調査・学術研究」に人文科学系の学術研究しかないのはなぜか。他にも歴史系の強化や充実の文言が目立つが、自然科学も強化した方が良い。	番号5と同じ
	その他	中央博物館に併設されている生態園の活用についても言及されるべきである。	番号18と同じ